

(様式2)

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590101307		
法人名	株式会社 ふれあいの杜		
事業所名	グループホームふれあいの杜学校町(2ユニット共通)		
所在地	新潟市中央区学校町通2番町5247番地122		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日のあたる明るいリビングと、明るいスタッフが自慢です。居心地の良い空間作りを目指し、笑顔を絶やさず、日々入居者様と向き合っています。また、入居者様を介護される側だけにせず、共に助け合い、思いやり合う関係を築いています。こちらの考えを押しつけるのではなく、皆さんが健やかに共同生活を送れるよう、日々考えながら取り組んでいます。また、コロナ禍において外出する機会も少なくなっていますが、施設内でできる楽しいイベントにも力をいれています。職員同士何でも話せる環境づくりを目指している為、離職も少なく、職員が定着していることでなじみの関係ができ、入居者様にとって安心感に繋がっていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新潟市の中心部に位置する住宅地にあり、自治会に加入し、週1回、地域住民も利用する移動販売車に事業所の駐車場に来てもらうなど地域住民との自然な付き合いがある。また、地域に開放する目的で3階部分に多目的室を設け、地域の茶の間として利用されるなど、地域社会に貢献し、地域と共に歩もうとする姿勢がうかがえる。

コロナ禍で面会が制限される中、リモート面会や窓越し面会など工夫し、また、些細なことでも家族に連絡するよう心がけたり、毎月職員が利用者の様子を手紙で伝えるなど、家族と情報を共有し、さらに介護計画に家族の役割の欄を設けるなど、家族との絆を大切に、共に利用者を支える支援に努めている。

コロナ禍で出かける機会も減っているが、少人数での外出行事を計画したり、職員が交替で室内でのレクリエーションを企画するなど利用者に楽しく過ごしてもらえるよう工夫している。

毎年、個々の職員が主に利用者支援に関する目標を書き、各フロアに掲示し、一人ひとりの人格を尊重し、思いに寄り添う支援を実践している。職員が何でも言える雰囲気があり、管理者、職員間のコミュニケーションがよく取れている。管理者を飛び越え職員が会社常務に直接電話できる仕組みもある。毎月管理者会議が開催され、会社全体で職員を大切にし、地域に開かれ、利用者により良いサービスが提供されるよう取り組みがなされている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是や運営理念、運営方針を職員が朝礼時に見える位置にかかげ、一人一人意識を持ち職員全体で取り組んでいる。	開設時、管理者が中心となり職員全員で話し合っ て作った事業所の運営理念は、社是「誠意を尽くす」と共に、玄関や各ユニットに掲示され職員に浸透している。「生活づくり」を中心に据えた運営理念は、ミーティングやカンファレンス、日々の支援の中で意識され、振り返りがされている。	
2	(2)	グループホームふれあいの杜学校町(2ユニット共通) 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に自治会長、協力薬局等に参加してもらっていたが、コロナの影響で書面での報告となっている。また、3F多目的室の地域住民の利用もコロナの影響や利用される方が高齢になってきており難しくなっている。施設としては、高齢の方だけではなく幅広い年齢層の方にいつでも利用して頂けるようにご担当者様にお話している。	地域の自治会に加入したり、週1回、移動販売車に事業所の駐車場に来てもらい、近所の方も利用されるなど地域との自然な付き合いがある。地域の方に利用してもらう目的で3階に多目的室を設けており、コロナ禍以前は1～2週に1回、『地域の茶の間』にも利用されていた。また、コロナ禍前は事業所の夏祭りに地域の方に来てもらったり、地域の防災訓練に参加するなどの交流も行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、地域住民の方に多目的室を開放していましたが現在はコロナの影響や利用される方が高齢になり難しくなっている。運営推進会議の資料の中に施設の様子など掲載し認知症について理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響にて開催できていないが、ご家族・地域の方や協力施設に資料を配布し月々の行事や事故、ヒヤリハットを報告し、助言を頂くように努めている。	会議には利用者、家族、町内会長、地域包括センター職員、他法人のグループホーム職員、薬局の薬剤師、の参加を得ている。コロナ禍の現在は書面での開催とし、資料を郵送や持参して、意見をもらっている。利用者の状況、事業所の活動内容、ヒヤリハット・事故の報告などを行い、意見を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への報告書類などを通じ色々な助言を頂いたり、地域包括支援センター職員に運営推進会議の案内を出させてもらい助言を頂くように努めている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加してもらっており、事業所の運営や利用者の状況について報告し助言をもらっている。市の担当課とは事故報告や疑問点の問合せ、他の事業所の取り組みについて教えてもらうなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の出入口に関して職員2名以上出勤している時は、できる限り施錠せず対応している。また、離接防止の為、玄関に人感センサーを設置しているが、できるだけ閉塞感を与えないように努力している。	玄関に人感センサーを設置し、また、市の担当者にも相談し、職員が少ない時はフロアの出入りに施錠を行っている。居室での転倒防止のため家族の了解を得てベッドの足元に人感センサーを取り付けることもある。施錠やセンサーについては職員間で協議、評価を行い、できるだけ設置しなくて済むよう努めている。3か月に1回、「身体拘束適正化委員会」を開催し、「身体拘束チェックシート」、「施錠及び不適切ケアチェックシート」を用いて職員が日々のケアを振り返る機会を設けている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修や身体拘束チェックシート・施錠及び不適切ケアチェックシートを活用し、職員一人一人虐待に関する意識を高めている。また、一人一人個人目標を立ててもらいその目標に向かい取り組んでもらっている。	毎年、職員一人ひとりが主に利用者支援に関する個人目標を立て各フロアに掲示している。3か月に1回、「施錠及び不適切ケアチェックシート」で課題となった項目について集計し、全体で振り返りを行い虐待のないケアを心がけている。また、職員が何でも言える雰囲気、関係づくりに努め、管理者も職員に声をかけストレスを溜めないよう配慮している。職員が管理者を経由せず直接会社常務に電話できる仕組みもある。それらの取り組みは離職率の低さにもつながっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画にとり入れ学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に締結や解約等について説明させて頂き理解・納得を得ている。また、疑問点などあればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響にて運営推進会議を開催できず。意見箱や電話での要望確認となっているが、日頃から些細なことでも連絡させて頂き、ご家族が話やすい環境作りにも努めている。	1か月ごとに担当職員を交替し、職員全員でユニット9人の利用者を平等に見るようにしているが、毎月、広報紙と共に担当職員の顔写真を載せ、利用者の生活面、健康面、その他の状況を書いた手紙を家族に送っている。また、物品を持参してもらった時や電話などで、些細なことでも連絡するようにし、家族との情報共有に努め、意見をもらうようにしている。利用者については、普段の会話や様子から意見、要望を汲み取るようにしている。出された意見は記録し、職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや朝礼時に職員より直接意見を聞くよう努めている。また、普段から職員が話やすい環境作り、職員とのコミュニケーションを大切にしている。	毎月の朝礼や2か月に1度のユニットミーティング、各種委員会で積極的な意見が出されている。また、リーダー会議や毎月の管理者会議があり、職員の意見が会社上部まで伝わる体制が整っている。職員が管理者を経由せず直接常務に電話できる仕組みもある。管理者は日頃から職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、利用者支援や設備の改善等様々な事柄について意見が出され、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇・夏季休暇・冬季休暇を設けたり祝い金や資格手当を支給している。また、上司への直接連絡(直通ホットライン)を設けている為、職員も安心して働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員教育担当を決め、サービスの質の向上に努めている。管理者や職員が役割を持つことで責任感に繋がっている。また、外部の研修参加への機会も積極的に設けており研修費の助成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターより研修開催の連絡メールが届き、できる限り参加させてもらっている。今後も参加させて頂きサービスの質の向上に努めるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し、ご家族の意向やご本人の気持ちを伺い、安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と話し合い、今までの生活状況や、不安に思っていることなど、聞き取りをしながら関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の双方が安心してサービスを受けることが出来るよう、カンファレンスなど調整しながら方向性を見つける努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の生活を支えるということを重視し、本人のできることを見極め、生活全般に関わる物事に対し、できることはして頂くなどその方に応じた支援を行うよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、ホームでの様子を伝えるお手紙や広報誌をご家族に郵送している。また、受診同行や不足物品の補充等、可能な限りご家族に支援をお願いし双方の交流の機会をもつように努めている。	毎月、広報紙と共に利用者の生活面、健康面等の状況を書いた手紙を送ったり、些細なことでも連絡するよう心がけ、家族との情報共有に努めている。コロナ禍ではあるが、利用者、家族のふれあいを大切にし窓越し面会やタブレットを使っての面会など工夫している。受診の付き添いや物品の購入のほか、以前は外出、外泊をお願いしたり、また、介護計画書に家族の役割の欄を設けるなど、共に本人を支える関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族、友人、知人が訪れた際に、次回も訪れやすい雰囲気作りを心掛けている。また、面会制限が緩和された際には、コロナ前に来られていたご家族等に案内文や電話で説明している。	アセスメントシートの「馴染みの場所」の項目を用いて、入居時や入居後に本人、家族から情報を得て馴染みの人や場所の把握を行っている。コロナ禍以前は家族、親戚、知人の面会を歓迎したり、馴染みの美容室の利用や家族との外出などがあった。現在もドライブで馴染みの場所や自宅前を通ったりと、かつての関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の心身の状態や対人関係を観察しながら、時々で職員が間に入るなど、穏やかな雰囲気が作れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でもご家族や関係者から相談があれば、その都度対応し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や言動から、思いに沿った支援が出来るよう心掛けている。また、ご家族と管理者、職員との会話の中にも様々な情報を見出し、良好な関係が築けるように努めている。	入居時、本人、家族から思いや意向を聞き取りフェイスシートに記録し、職員間で共有して日々の支援に活かしている。入居後も本人、家族の意向の把握に努めている。意思表示の難しい利用者については仕草や表情からくみ取るようにしている。外出の希望も多く、月に1回は出かける行事を計画し、小グループで数回に分けて出かけている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族、ご本人や関係者への聞き取りや、普段の会話の中から把握できるよう努めている。居室内も極力ご自宅で過ごされていた時と同じような生活環境をご家族に提案している。	入居時に家庭訪問を行ったり、それまで利用していたサービス事業所を訪ねるなどして、本人、家族、居宅介護支援専門員、事業所職員、病院ケースワーカーなどから情報を得ている。入居後に得られた情報も記録して職員間で共有し、居室を自宅と似たような環境にしたり、畑作業の手伝いや雑巾縫いなど利用者の得意なことを活かす活動などにも反映されている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の状態観察を日々徹底し、記録を残し、職員同士情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、ご本人、ご家族、職員から聞き取りを行い、毎月モニタリングを実施、カンファレンスを開催（現在は、電話での確認）、意見を反映させた計画作りに取り組んでいる。	入居時、本人・家族への聞き取りや居宅介護支援専門員からの情報により、1か月間の暫定計画を作成し、その後、正式な計画を作成している。毎月モニタリングを行い、カンファレンスで職員から意見を聞くとともに、日々の本人の様子や言葉、家族の意向を反映させながら定期的に、また、状態の変化があった際に見直しが行われている。コロナ禍の現在、サービス担当者会議への家族の参加は行われていないが、介護計画の原案と共に意向表を送り、家族から意見をもらうようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などケア記録に入力し個別に作成している。 特変時はその都度申し送りをを行い、必要時は看護師に連絡するなど情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が都合の悪い時の受診・日用品の買い物等、個々のニーズに寄り添った支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、地域のお茶の間サロンとの交流や、地域行事への参加をしていたが現在はコロナの影響により中止している。また、お茶の間サロンの地域代表者より、参加者が高齢となり継続が困難との連絡あり。今後も地域との交流ができるよう支えあい仕組み作りの担当者様とお話している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診を継続できるよう、医療連携表での情報提供や、かかりつけ薬局の薬剤師とも連携し支援している。また、以前のかかりつけ医への受診が困難な場合は、往診医へ移行できるよう支援している。	かかりつけ医は本人、家族の意向で決めてもらっている。事業所の協力医が週1回往診しており、協力医に変更する利用者もいる。医療連携表により主治医、薬剤師と情報共有をしている。また、薬剤師が毎週来訪して配薬等を行っている。法人の看護師も定期的に来訪して利用者の状況等を確認し、24時間通して指示・助言を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期訪問しており、日頃の様子や状態をタブレットに入力したり、口頭でお互い情報を共有している。24時間のホットラインもあり、いつでも助言、指示をもらえる。また、往診時の同席や、家族への状態説明等も行っており、協力体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカー、看護師に情報提供したり、相談の機会を設けてもらえるようにしている。コロナの影響により困難な時もあるが、退院許可がおりた際には、ワーカーや看護師と連携を図り状態確認をさせてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前及び必要時に、事業所で出来ることの説明を行っている。日頃の様子は、毎月の手紙や、来訪時に行い、状態に変化のあるときには、その都度、状況説明を行っている。また、重度化した際の医療との連携が上手くいくよう、かかりつけ薬局や看護師とも連携を図っている。	「重度化対応に関する指針」があり、入居時に本人、家族に説明している。利用者の日ごろの状態についてはこまめに家族に伝えているが、状態の変化のあった際や重度化した場合は医師や薬剤師、看護師の意見を聞きながら家族と今後の対応について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の行事計画に研修をとりいれたり、フロア職員の目の届くところにマニュアルをおき、必要時に確認できるようにしている。	緊急時や事故発生時のマニュアルがあり、さらに見やすくフローチャートにしたものを各フロアに置いている。緊急時対応等の研修はアプリを使って全職員に行い、看護師を講師に感染症や応急手当のほか、ガウンの着脱方法など新型コロナウイルス対応についても研修を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上防災訓練を定期的に行っている。コロナ禍で中止となっていた地域災害訓練にも参加する予定。	消防設備点検に合わせ、点検業者の指導を受けながら年2回以上、主に夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。地震や津波、水害を想定した訓練、消防設備や自家発電機の使い方などの指導も受けている。コロナ禍前は地域の防災訓練にも参加していた。また、水、食料、必要備品の備蓄も行っている。	災害時、法人の事業所間での協力、連携についての話も出ているとのことなので、具体的に協議を進められるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方としてではなく、一人一人の人格を大切に声掛けを行っている。また、年間の研修計画にとりいれ職員の意識を高められるように努めている。	認知症ケアや倫理、法令順守などの研修を計画的に行い、利用者支援に関して職員個々に目標を掲げ各ユニットに掲示するなど一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。排泄などの介助場面では自尊心に配慮し、同性介助の希望にも対応している。個人の記録なども第三者の目に触れないよう適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に、「今、してみたいこと」の確認や、入浴時の衣類を共に選ぶ等、様々な場面で自己決定できるよう働きかけている。当日のスタッフの体制にもよるが、散歩などの個別支援もできるだけ行うよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に、全ての介助に置いて無理強いせず、可能な限り希望に沿った対応ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に服を選んだり身だしなみを整えられるよう支援している。また、パーマやヘアカラー白髪染め等、ご本人に確認し訪問理容やご家族にお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根取りや、盛り付け、皿洗い、皿拭きなど職員と一緒にやっている。入居者様自ら「何かすることない？」など、積極的に何かしようとする声が多く聞かれている。	献立は法人本部で作られたものを使っている。利用者にも、もやしの根取りや皿洗い、片付けなどを手伝ってもらっている。入居時に好き嫌いを聞いており、嫌いなメニューには代替食を提供している。畑で採れた野菜や事業所で作った味噌も使っている。職員も同じものを食べ、おやつ作りや出前を取るなど、食事を楽しむ工夫を行っている。コロナ禍前は外食にも出かけていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・水分摂取量のチェックは一日を通し行っている。これらをもとに職員間でも情報共有し必要に応じ各主治医・薬局・看護師ともに連携を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態を見極め、毎食後、全員に歯磨きの支援を行っている(声掛け、促し、見守り)。また、毎晩、義歯洗浄剤を使用する場合の支援もったり、必要に応じご家族や協力歯科に連絡し連携を図っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の1日の生活リズムを把握し、ご本人の意思に沿い、トイレ誘導を行っている。また、失禁のある方についても、紙パンツや適切な尿取りパットを使用している。清潔保持については、自尊心に配慮しながら支援している。	排泄チェック表等を使い排泄パターンや1日の生活リズムの把握に努め、できるだけトイレで排泄できるよう声かけ、誘導を行っている。また、乳製品、麦ごはんの提供など食事内容に配慮し、体操などを動かしてもらおうよう心がけ、スムーズな排泄ができるよう努めている。支援により、紙パンツ使用から普通の布パンツへと状態が改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳や飲むヨーグルト、野菜ジュースを提供している。また、押し麦を入れご飯をたいてい。水分摂取量のチェックは欠かさず行ったり、毎日体操への参加を促している。薬剤ばかりに頼ることのないよう、個々に応じた取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員体制により、時間帯の制限はあるが、その範囲内で個々の希望やタイミングに合わせて入浴を行っている。季節のお湯としてゆず湯も楽しんでもらっている。今年も予定している。	週2回の入浴を基本とし、入浴日も決めてはいるが、拒否があれば翌日にするなど臨機応変の対応を行っている。ゆず湯やしょうぶ湯などの変わり湯にしたり、職員とのマンツーマンの時間を楽しんでもらっている。また、同性介助の希望があれば対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルに合わせ、基本的に自由に過ごして頂いている。夜間眠れない方にはお話を傾聴し、安心してもらえるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を導入していることで、常に個々の薬についての相談ができ、より安全な服薬支援ができています。副作用や、内服薬の変更時の助言や、医師との連携もスムーズに行えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きなことを個々の生活歴や日々の様子や会話の中からみつけだし、楽しみや気分転換が出来るよう、個別に合わせた働きかけを行っている(縫物・散歩など)。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の人員体制や天気、個々の気分に応じて外出の支援ができるよう努めている。	職員体制が整っていれば地域の神社など近隣の散歩に出かけている。また、毎月外出行事を計画し、少人数で数回に分けて出かけている。コロナ禍以前は家族にも声をかけて一緒に外出行事に参加してもらったり、家族と外出や外食、旅行、法事などに出かけることもあった。畑作業や週1回の移動販売車の来訪時も、外へ出る機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かっている方が1名おり、毎週水曜日に移動販売が施設にくるので、ご本人自ら好きな物を選び支払いをしている。その他、訪問販売を利用される方はホームの立替を利用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り扱いが難しい為、電話を取り次ぐことや、かける為の支援は都度職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節の花々を飾ったり、季節感のある飾りをホール内に掲示している。また、日中は日当たりがよく、1階も2階も明るい空間となっている。	共用空間には広い窓があり、明るく、毎日清掃・消毒され清潔に保たれており、気になる臭いもない。加湿器が置かれ、温度、湿度にも配慮されている。また、ソファが置かれ利用者がゆったり談笑できるスペースとなっている。季節の装飾は派手すぎず、居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースには食卓椅子の他、ソファや、畳コーナーがあり、思い思いの場所で自由に過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や思い出の品を自由に持参してもらっている。また、日々の生活の中でご本人と相談し必要な物、ご本人のほしい物がある場合、ご家族に連絡し少しでもご本人が望まれる空間作りを心掛けている。	畳を敷いた部屋も各ユニット1室ずつ用意し、利用者の状況に応じて使用している。職員により温度管理を行い、利用者を手伝ってもらいながら清掃し、清潔を保っている。使い慣れたものを持ってきてもらうよう伝え、自宅の環境に近づける工夫をするなど、その人らしい居心地よい居室となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、手すりも多く安全に過ごせる建物となっている。日々の様子や会話の中でご本人の「できること」「わかること」をみだし可能な限り、自立した生活ができるように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				